

核医学診療科

診療科の概要

核医学診療科は微量の放射性同位元素（ラジオアイソトープ）で標識された薬剤（放射性薬剤）を利用し、疾患の診断や治療を行う診療科です。近年急速に発展してきたFDG/PET CTによる腫瘍の早期診断、病期評価は診断・治療に不可欠なものとなっています。また脳、心臓、腎臓などでは従来の形態診断では得られない機能情報や分野細胞機能を得ることができ、治療方針の決定に大きく貢献しています。さらには当科では放射性同位元素を用いた癌の先駆的治療も行っています。最先端技術を駆使した機能診断や先駆的治療を通して患者さんの診療に役立てています。

研修内容と特徴

核医学診療科の研修の流れは、まず放射線科専門医取得を目指した研修を行い、その後に放射線科診断専門医・核医学専門医の為の研修を行うというものになります。放射線科専門医取得を目指した研修は放射線治療科、放射線診断科と一緒にを行います。核医学診療科では基本的に大学院進学を勧めており、卒業後5年目に大学院に入学となります。

核医学診療科に特徴的な研修内容は、核医学診療で用いるさまざまな放射性薬剤に関して、その特徴並びに安全な取り扱い、投与方法、核医学のデータ収集、定量解析を知り、各領域における適応疾患と利用法、そして読影法を習得する事です。北海道大学では1999年よりポジトロン断層撮影装置(PET)を用いた検査・研究が始まり、2008年12月に1台、2013年6月から更に2台、計3台のPET/CT装置が導入され、臨床・研究に励んでいます。一般に広まっている腫瘍検査だけではなく、興味に応じて大学病院だけでしかできない脳・心臓の検査に関しても検査方法と画像読影法について習得してもらいます。また、全国有数の症例数を誇る放射性ヨード(131I)を用いた甲状腺分化癌並びに甲状腺機能亢進症の治療と患者管理、全国に先駆けて行っている131I標識メタヨードベンジルグアニジン(MIBG)による悪性褐色細胞腫や傍神経節腫の治療と患者管理を修得します。2008年に保険承認となったストロンチウム(89Sr)による骨転移疼痛緩和療法およびゼヴァリン(90Y-Zevalin)による悪性リンパ腫の治療も研修します。これにより核医学診断法・治療法を専門医の常駐しない施設でも、日常診療の一貫として核医学を上手に使いこなせる臨床医を養成する事を最終的な目標としています。また、新しい分野の研究の発展にも力を注ぎ、研究レベルでは北大は世界的にも一流のPET研究施設と認識されて数多くの論文や学会発表を行っています。国際経験豊富な指導医のもと国内の主要な学会や国際学会での発表なども大いに推進しています。新しい分野での研究に興味のある意欲的な研修医を求めています。

取得できる専門医・認定医

核医学専門医 PET核医学認定医 放射線診断専門医

教育研修施設

恵佑会札幌病院、函館五稜郭病院、北見赤十字病院、市立苫小牧病院、市立旭川病院、帯広厚生病院、セントラルCIクリニック、旭川厚生病院、製鉄記念室蘭病院、日鋼記念病院、南三条病院

研修プログラム(フローチャート)

初期研修



卒後3-4年目
大学病院にて放射線診断科、核医学診療科を含めたローテーション
卒後5年目
大学院進学
卒後6年目
放射線科専門医取得



卒後8年目以降
放射線科診断専門医・核医学専門医取得

連絡先情報

直通電話 : 011-706-5152
内線 : 5152 (医学研究院)
研修担当者 : 志賀 哲
email : kakui-s@med.hokudai.ac.jp
URL : <http://nuclear.hokudai.me/>